

## 日本圧延工業

### 1600ト縦型インパクトプレス導入

### アルミ消火器用容器など生産



磯部社長

アルミニウムスラッグのトップメーカー、日本圧延工業（本社・滋賀県東近江市、社長・

磯部正信氏）は、本社工場内に縦型ロングストローク1600トインパクトプレスを新設、同機を3月から本格稼働させた。プレスの新設は、需要が見込めるアルミ消火器用容器を中心とした大型容器の生産や、既存インパクトプレス機の故障などに備えたBCP（事業継続計画）の観点で行った。投資額は5億円（プレス機一式が3億6千万円、建屋1億4千万円）。

同社は自社製造のアルミスラッグをインパクト加工することで、消火器用容器、浄水器カートリッジケース、水筒、電池ケースなどを低コストで製造できる。同社では横型インパクトプレス機を1000ト、600ト、500トの計3機を保有している。インパクト加工とは、ダイスをセットしたアルミスラッグをパンチで衝撃を与えることでスラッグがパンチの側面に沿って瞬間的に伸び筒状に成形できる加工方法。

「既存1千トプレスでは、一部の消火器用容器がプレス能力の不足から顧客仕様に合った製品をインパクト加工できなかった。消火器用容器の素材はこれまで純アルミのみだったが、近年では強度を高めた3000系（Al-Mn系）も使われている。1600トインパクトプレスの導入でこれが可能になった。今後はインパクト加工後の搬送装置の改善や梱包工程の自動化を進めたい。」



専用建屋と1600ト縦型インパクトプレス

切り加工・洗浄などを活用し、長尺製品も対応できる点が強みだ」（磯部社長）。

1600トインパクトプレスは国内最長となる650ミリのロングストロークが特長。仕様は毎分15〜25回転。円形アルミスラッグ（直径127ミリ・厚さ15・5ミリ）からインパクト加工で消火器用容器を一発で加工できる。昨年11月に搬入した。専用建屋は敷地面積が約400平方メートル、高さが約18メートル。地盤整備のための杭打ちや、深さが約5メートルまでの基礎工事を行った。

日本圧延工業は2016年8月、非鉄総合商社川島グループ（本社・静岡県浜松市、社長・川嶋義勝氏）入りして再スタートを切った。19年7月期業績は

売上高32億4千万円、経常利益2億1千万円。同期はスラッグ（合金・純アルミ）、冷間圧延アルミコイル、アルミ板（一般材）を6400ト生産。インパクト加工品は売上高の1割弱を占める。足元の状況は、新型コロナウイルスの影響で引き合いが鈍化しているという。